

## 年末年始の本船荷役実績の傾向等について (2022.12.31～2023.1.4)

### 1. 昨年との比較

		昨年	
◦年末年始荷役実施港	63港	(65港)	
◦荷役隻数 (外航・内航の合計)	811隻	(880隻)	69隻減
内訳			
コンテナ船	261隻	(235隻)	26隻増
RORO船	37	(38)	1隻減
自動車専用船	14	(10)	4隻増
在来船	293	(341)	48隻減
その他船	206	(256)	50隻減

### 2. 傾向と要因

- ・年末年始荷役実施は、前年と比べ2港減少している。
- ・隻数については、全国では69隻の減。6大港では8隻の増、その他主要港と地方港では77隻減少している。
- ・船型については、コンテナ船は26隻増加しているが、在来船とその他船がそれぞれ50隻ほど減少している。
- ・日にち（曜日）別に見ると、1月2日は増加しているが、それ以外は減少している。昨年と比べ期間中の平日が3日から2日に減ったことが減少の一因かと考えられる。

### 3. 外航コンテナ船取扱個数の比較

- ・隻数は前年より増加したが、1隻当たりの取扱個数については減少している。
- ・コンテナ船261隻中、外航コンテナ船は254隻であり、隻数は前年を23隻上回ったが、取扱個数は約11万TEUと前年を約1万6500TEU下回った。
- ・6大港のコンテナ船入港隻数は186隻（前年比13隻増）であり、横浜港と神戸港が増加した。取扱個数では横浜、川崎、神戸が前年を上回った。その他主要港と地方港では、隻数は増加したものの取扱個数は減少した。なお、1隻当たりの取扱個数は前年を下回った。
- ・例年同様、中国航路船が全体の約50%占めている。

年末年始の本船荷役実績  
 (2022.12.31 ~ 2023.1.4)

(隻)

区分		コンテナ船	その他 〔RORO、自動車〕 〔在来船、その他〕	合計
主要港	東京	37 (36)	4 (4)	41 (40)
	横浜	42 (36)	9 (9)	51 (45)
	川崎	5 (2)	16 (19)	21 (21)
	名古屋	30 (29)	14 (21)	44 (50)
	大阪	29 (28)	36 (40)	65 (68)
	神戸	37 (25)	10 (5)	47 (30)
	関門	12 (17)	33 (35)	45 (52)
	6大港計	192 (173)	122 (133)	314 (306)
その他主要港	千葉	1 (0)	20 (30)	21 (30)
	清水	11 (10)	0 (0)	11 (10)
	四日市	6 (6)	6 (8)	12 (14)
	博多	13 (12)	3 (2)	16 (14)
	その他主要港計	31 (28)	29 (40)	60 (68)
11港計		223 (201)	151 (173)	374 (374)
その他の港湾 (52港)		38 (34)	399 (472)	437 (506)
合計 (63港)		261 (235)	550 (645)	811 (880)

注) 1. ( )内の数値については昨年実績  
 2. 数値は、外航船、内航船の合計値